

「ブラシ」のスペシャリスト、株式会社カドノブラシ製作所 市島工場



【会社概要】

■所在地	丹波市市島町上竹田 1008
■電話番号	0795 - 85 - 0458
■主な事業	各種ブラシ設計・製造
■従業員数	39人

きらめき★インタビュー 先輩社員 の声



後列左側 土田景子さん 右側 渡部恵理香さん
前列左側 高見理沙さん 右側 中野夏希さん

◆「店頭に並んだ歯間ブラシを見つけたときはうれしくなりそうです。日々の疲れも吹っ飛びます。」と話してくるのは毎日、何万本もの歯間ブラシを検品されている渡部さん・土田さん

◆「未経験の私たちにとつて、自分の手でねじってブラシをつくる!!という作業はとても難しく、日々、試行錯誤を重ねながらがんばっています。」とブラシの製作をされている入社二年目の中野さん・高見さん

■何をしている会社？

日ごろ、私たちが清掃や道具の手入れなどに使っているブラシ。そんな暮らしに役立つ小さなブラシから、全長5mを超える大型の工業用洗浄ブラシまで幅広く製造しているのが、市島町上竹田にある(株)カドノブラシ製作所です。

創業者の葛野武氏が福知山で工業用ねじりブラシの製造を開始したのは昭和23年。その後大阪へ移転。昭和46年、本社機能を大阪に残し、新たな生産拠点を自身が生まれ育った市島地域に建設しました。



主力製品の歯間ブラシ

昭和55年には、国内で初となる自動歯間ブラシ製造機をドイツから導入し、生産体制を整えるなど、設計、試作から製作までを一貫して行う「ブラシのスペシャリスト」として知られています。これまでに製作した製品は3,000種類余りにのぼり、その高い技術力を背景に安定した受注を確保しています。

■ここが一押し！

現在の主力製品は歯間ブラシで、全国で唯一0.6mmを通せる規格品を製作できます。その日の気温や湿度によって品質が左右される工程では、確かな技術とノウハウが要求され、最後の微調整は技術者の長年の経験による感覚的な領域です。

今では世界一といわれる調整技術で、製造機械メーカーからの信頼も厚く、発売前のテストア



お客様のオーダーに応じて手作業で作られるブラシ

INTERVIEW

トップからのメッセージ

工場長 岸 龍太郎 氏

昨年の8月、丹波の地を襲った集中豪雨は、当社にも甚大な被害を及ぼしました。工場内には大量の土砂が流れ込み、しばらくは復旧作業に追われる日々でした。そんな中でも2週間余りで製造を再開できたのは、近隣の方々からの支援をはじめ、「自分たちの会社を何とかするんだ」という強い気持ちで復旧作業に当たってくれた従業員のおかげだと思います。

工場の復旧に協力してくださった地域の方々の心の温かさにふれ、従業員一丸となって復旧に力を合わせている姿を見ると、この地で操業できてよかったと心から感じました。

これからも、地元への感謝を忘れることなく従業員とともに、多くのお客様へよりよい製品をお届けできるようがんばっていききたいと思います。

市長からのメッセージ

【こちら市長執務室】



丹波市長 辻 重五郎

八日市橋が開通



昨年8月の豪雨災害により崩落した、八日市橋の通行が8月12日午後3時から可能となりました。通常2～3年かかるとされる架け替え工事ですが、重点的に行われ、1年の工期で完成しました。

丹波市豪雨災害から1年が経過しました。昨年8月16日から17日にかけて降り続いた雨は、市島地域において24時間雨量が414mmを記録し、死者1人、負傷者4人、家屋の全半壊が69戸、床上浸水174戸、床下浸水784戸などかつてない大きな被害をもたらしました。

この難局に対して市民みなさんのご協力をはじめ、18,000人を超えるボランティアの方々や義援金など大変温かく心強いご支援をいただいた方々にあらためて感謝申し上げます。

「テーマ」 豪雨災害から一周年を迎えて

市では豪雨災害からの復旧・復興を早急かつ円滑に進めること、市民の安全・安心の確保や経済活動の回復が大きな課題となりました。このため、国や県には連携を一層強化し丹波市への支援体制を整えていただきました。

そして、平成27年3月4日には、「市復興プラン策定委員会」（委員20人）の室崎益輝委員長（神戸大学名誉教授）から住民と協働し校区単位のきめ細やかな情報を掲載したハザードマップの作成や大学

と連携し、低価格で住宅を改修する方法の提案、空き家などを活用した交流拠点の整備など52の先導的事業を実施するよう答申を受けました。市では、この答申を受け、3月31日に復興プランを策定し、事業に取り組んでいるところです。室崎委員長には、この被害状況は市が近い将来抱えるであろう課題の縮図ととらえ、先導的モデルとして復旧・復興に全力で取り組むことを約束いたしました。

さて、平成27年8月17日に災害から一周年を迎えましたが、それに先立つ8月12日に国道175号「八日

市橋」の架け替え工事が完了し、開通式が行われました。この橋は前山川の増水により崩落したもので、災害復旧のシンボリックな存在として位置づけており、橋の開通は大きな喜びとなりました。

また8月29日、30日には、「復興へ向け一年“心つなぐ2days”（ツーデイズ）和一处」と銘打ち、市民、支援者、関係団体などが一堂に会する感謝イベントを予定しております。

私の元へ被災された市民の方から届きました手紙の一部をご紹介します。

「昨年夏の丹波市豪雨災害では、温かいおこころ、忘れることはありません。呆然自失と申しますが、自然の凄さ、為す所知らずでした。多くの方のお世話で、元に戻りました。また猛暑・豪雨が来るやろうな・・・と思いつつ、「日々是好日」を願い、変わりなく過ごしています。皆さんのつつがない、消夏を祈念いたします。有難うございました」被災された方々には、本当に「らく苦しい一年であったと思いますが、ご近所と力を合わせ、心を合わせ、前を向いて歩んでいただいたお陰で今日を迎えることができました。」

「心つなぐ」をキーワードに、これから本格的復興がスタートいたします。市民みなさんの引き続きのご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。

